

トドマツ *Abies sachalinensis* (Fr. Schm.) Mast.

マツ科 Pinaceae

1. 利用対象部位：樹皮

2. 組織形態：

樹皮は平滑でかなりの巨樹にならないと剥離しない。

内樹皮の基本構造は篩細胞層の中に接線状に断続する柔細胞が配列する。また、二次篩部内に断面円～楕円形の樹脂囊がところどころに出来る。

形成層の活動により組織が外に押し出されて行くと篩細胞層は押しつぶされるが、柔細胞は丸く膨らんでやや大きくなる。更に外側では柔細胞と思われる細胞が再分化し、厚壁異形細胞の塊を多数作る。

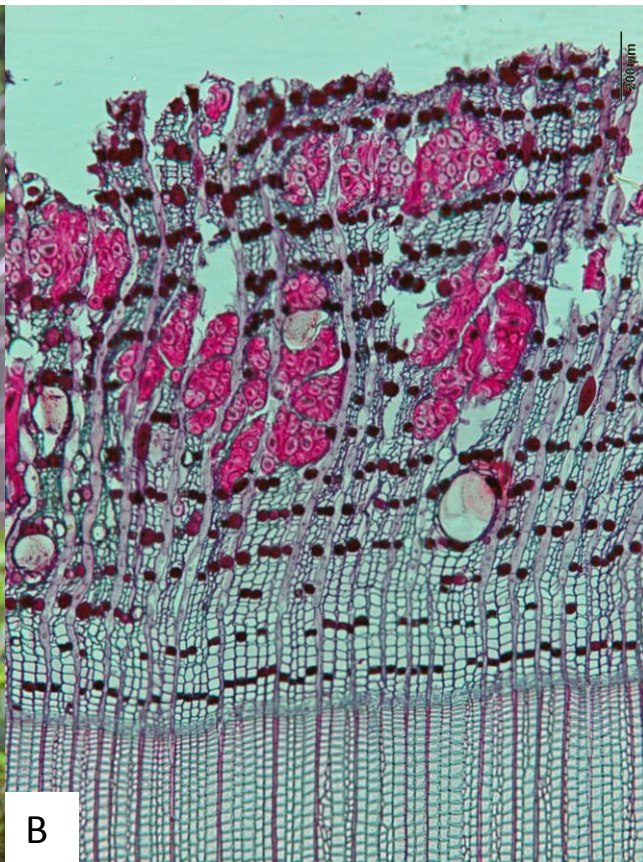
以上のようにトドマツの樹皮には繊維細胞が無いことから、編組製品の素材とはならないと考えられる。

3. 利用例：なし

4. 遺跡出土遺物：なし



A



B



C

A:トドマツの樹皮(北海道津別町)。 B&C:内樹皮の横断面とその拡大。画面下部に二次木部および形成層帯がある。二次篩部には、黒紫色で細胞内容物がある柔細胞、細胞壁が青色で細胞内容物が無い篩細胞、それに横断面で円～楕円の大きな樹脂囊が所々にある。4細胞幅くらいの篩細胞層と1細胞幅の柔細胞層が交互に現れるが、柔細胞層はしばしば断続的である。肥大成長して組織が外側に押し出され、篩細胞が機能を失うと周囲の柔細胞が丸くすこし大きく膨らむ。柔細胞のあるものは再分化して厚壁異形細胞の塊を多数作る。樹皮の放射組織は単細胞幅。